

令和4年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立加西こども園
----	------------

1. 教育保育目標

心豊かにたくましく生きる子 ○自分で考え行動する子 ○友達と育ち合う子 ○健康で心と体の強い子

2. 本年度の重点目標

「のびのびと遊び 共に育ち合う子をめざして」
～好きな遊びを見つけ、豊かに学ぶ経験を重ねながら～

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画的のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・外部講師の指導のもと、園内研修会を行い、実践に繋げ、「幼児期の今だからこそ大切にすべきこと」と題しての講演も開催した。 ・他クラスの保育を見る機会をもち、事後反省会で保育を振り返り、意見や考えを伝え合い、指導力向上に努めた。 ・園務分掌に基づき、各担当者の責任において行事計画を作成し職員会議で確認する体制を整えた。	A	・園内研修等で保育や環境を参観しあう機会をもったり、講師の指導助言を受けたりして指導力向上に努めた。 ・保育の連続性を大切に、立案だけに終わらないような指導計画を作成する。 ・行事・環境・支援等の部会を充実させ、職員会議で共通理解できるような報告を徹底していく。 ・互いに学び育ち合い、支え合える職員関係を築いていく。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分に関わり合う生活の工夫 ○子どもと主体性を大切に指導 ○子ども一人一人の発達の特徴を踏まえた指導方法の工夫	・発達に必要な経験ができた、主体的な遊びを展開したりできるような環境を構成するよう掛けた。 ・年齢に応じて“考える”ことを意識させ、園児の学びに繋がるようにした。 ・個、クラス、異年齢での育ち等を多方面から多様な目で捉えるようにした。 ・園児の内面理解に努め一人一人に応じた適切な関わりや援助を心掛けた。 ・コロナ感染対策で、遊び場や遊び方の工夫をしたことで、各年齢の経験や学びを保障することができた。	B	・子ども達が興味・関心をもって関わろうとする環境を工夫し設定した。 ・年齢での育ちに重点を置いて取り組んだ。その中で感染対策を講じながら異年齢交流ができるように、保育内容、環境等を職員間で話し合い、共通理解を図り、工夫しながら行うようにした。 ・日々の振り返りの時間を確保し、重点目標により近づけるよう取り組んでいく。
子 育 て 支 援	○「親子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○預かり保育の実施	・園庭開放を実施したが、コロナ禍ということもあり、参加者が少なかった。 ・年間3回の個別懇談では、園児の園と家庭での様子を共通理解したり、保護者の相談を受けたりして、連携を図った。 ・密を避ける為に2日に分けて参観を行い、一緒に家庭教育講座も開催した。保護者には好評だった。 ・三密の回避やコロナ感染拡大防止のため、臨機応変に年齢ごとの預かり保育を実施した。	B	・こども園ウイークでは、未就園の保護者に限定したことで、個別に対応しやすく園理解に繋がった。 ・保護者と話し合う機会をつくり、悩みや要望を気軽に話せる雰囲気や仕組みづくりをし、家庭との連携を適切に行うようにする。 ・コロナ陽性者が確認された時には、クラスごとの預かり保育を行い安全に通わせるように配慮する。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・全職員が安全安心な園をめざし、常時意識するようになった。 ・危機管理マニュアルの周知徹底をするため、訓練の計画を当番制にし、毎月火災・地震・台風・不審者侵入時などを想定して訓練を行った。 ・緊急時対応としてエビエンの使用方法やアナフィラキシーショック時のシミュレーションや窒息・誤嚥予防の研修を行った。 ・園内でも感染症が発生する。メールや電話による健康確認を行ったり、感染拡大防止のため、学級閉鎖の措置をとった。	A	・園舎や遊具が安全安心に使用できるように、安全点検は毎回違う職員が行い、危機管理に努めた。 ・全職員が安全安心な園を目指し、常に意識することを心掛ける。 ・早期や預かり保育時間にも訓練を実施し、状況に応じて判断し避難できるように全職員で共通理解を図る。 ・専門職員による交通安全教室・避難訓練を実施し、子ども自身が意識できるようにしていく。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通じた、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気付きを育む環境の工夫	・保育教諭自身が園児の手本であることを常に意識し、人権意識をもって教育保育を行うよう心掛けた。 ・年齢に応じた野菜栽培を行い、生長の様子を見たり触れたりする経験を通し、命の大切さを感じ取れるようにした。 ・遊びや活動後には話し合いの機会をもち、互いの存在やよさを認め合うクラス運営を行った。	A	・保育教諭自身が思いやりのある態度や言葉遣いを意識して教育・保育するよう心掛ける。 ・子どもと共に植物や生き物を育てる中で、命の大切さを伝えていく。 ・相手を思いやる気持ちを育てることで、自尊感情も育んでいけるようにつなげていきたい。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・専門機関や教育機関との連携を密にし、具体的なアドバイスを受けたり、個々の園児に合った支援方法を探ったりして、職員間で周知徹底を図った。 ・一人一人の持ち味や特性が行かせる活動を取り入れたクラス活動を行った。 ・日頃の様子の記録をもとに、教育支援ファイルを作成し、次年度の保育に繋げることができた。	A	・気になる園児は、職員間の連携、共通理解のもと、家庭環境や保護者の思いにも配慮した細やかな対応を心掛ける。 ・職員会で支援児の日々の様子、支援の方向性等について報告、検討し、全職員共通理解のもと一環した支援が行えるよう努める。 ・特性に対する対応の仕方、行事への参加の仕方等十分話し合い、保護者の気持ちにも寄り添ったサポートを心掛ける。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○こども園・小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	・保護者への各種配布物は、分かりやすさや伝わりやすさを意識して作成した。 ・クラス便りの発行は月1回と決まっているので、タイムリーな内容にならないことが多い。 ・5歳児は「よしよし畑」さんのご厚意で、7月にはトウモロコシ、2月にはトマトの様子を見たり収穫し頂く経験ができた。 ・幼小の連携は計画、交流共に実施できなかった。	B	・クラス便りは月1回と決まっているので、園の様子を掲示したり、かさいこ通信の発行回数を増やし、園の様子を伝えていく。 ・地域の協力を得ながら、子ども達に様々な体験ができる機会をつくり、地域の人の温かさや地域の良さを感じられるようにしたい。 ・小学校交流については、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できることを探り交流をもちたい。

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・概ねAである。保護者等の園評価を考慮しつつ自己評価できている。
・それぞれの項目ごとに的確に評価を、園での改善点も打ち出されている。
・保護者は園の教育・保育に満足されているようだ。評価は適切であり問題はないと思われる。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園 自 己 評 価 結 果 及 び 改 善 の 方 策 の 適 切 さ に つ い て の 評 価

・園児が共に育ち合う環境を構築するためには、まず先生方が互いに学び育ち合い支え合う関係づくりが重要である。引き続き保育力を高め合うよう励んでもらいたい。
・立案だけに終わらないような指導計画を作成し実施してほしい。

・取り組みと評価・改善が分かりやすい。
・コロナ禍で工夫して取り組むことが多々あったと思われる。保護者が子ども達が遊んだり生活するのにふさわしい環境となっていると評価していることから、成果があったと考えられる。

・取り組みでは、園での実施努力がよく理解できる。コロナ禍での対応は、各々の思いがあり大変ですが、改善のような対応が大切です。
・コロナ禍で臨機応変に取り組み中止、延期となる行事もあったのではないかとそんな時こそ職員のチーム力を発揮し、保護者の理解を得られるように頑張ってもらいたい。

・良い心掛けです。全職員の意識は園児にも保護者にも伝わると思います。
・2階建ての園舎では防犯、防災訓練において困難なこともあるだろうが、園児の安全が守れるように様々な場面を想定して防災計画を立ててほしい。
・専門職員による安全指導は引き続き実施してほしい。

・野菜栽培を行い、水をやったりして世話をすることももちろん大切だが、大きな子が育てているのを目にする小さい子ども達の知る機会にもなっている良い取り組みだと思う。これからもお願いしたい。
・大変ですが頑張ってもらいたい。

・個別の支援計画をしっかり作成し、職員の共通理解のもと支えていける環境をつくってほしい。
・修了証書授与式で、支援の園児を思いやる友達の優しい関わりが見られた。日頃の関わりの様子が出ていたと思うので、見ていて嬉しかった。

・園児に協力しているようで、園児から与えられることも多いです。小学生も同じ思いでしょう。交流できればいいですね。
・保護者から参観などの機会が少なく残念だったと意見があったようだが、コロナ禍の3年間を振り返り新たな視点で園行事への参加の在り方を検討してもらいたい。